

令和8年(2026年)1月

オホーツク地区 ユース3級審判員 高久誠弘

JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会 参加報告書

《概要》

○大会名 : JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会

○日時 : 令和7年12月25日(木)~29日(月)

○場所 : 鹿児島ふれあいスポーツランド(鹿児島県鹿児島市) 他

○参加者 :

審判員(32名)、地域インストラクター(16名)、JFAインストラクター(4名)

北海道派遣審判員 鈴木 陽和(高校3年生)オホーツク地区サッカー協会

高久誠弘(高校1年生)オホーツク地区サッカー協会

○事前研修会 : zoom《JFA》11/12(水)、11/10(水)

zoom《北海道サッカー協会》11/24(月)、11/15(月)

○担当試合 主審3試合 補助審判3試合(マクドナルドフレンドリーカップを含む)

《担当試合》

11/26(金) 1次ラウンド / インストラクター 石原薫 氏、和田雄次 氏

那須野力原FC-沖州FC (3-2) 主審 松島憂蘭 補助審判 高久誠弘

ヴィッセル神戸-オオタFC (2-0) 主審 高久誠弘 補助審判 松島憂蘭

振り返り

前半はお互いのチーム戦術やスピードを理解するのに時間がかかったものの全体を監視できるポジショニングを意識し、レフェリングができた。後半は両チームとも前半と比べ得点を狙っており、ペナルティーエリア内の監視がより重要視された。時間が経つにつれファウルの数が増えてきたが、選手とコミュニケーションを取る事でカードが出るような危険なファウルを抑止する事ができたと思う。試合終盤でアドバンテージを適応し、そのまま得点に繋げる事ができたのは試合が盛り上がった要因の1つだと感じている。

インストラクターから

・ピッチチェックの時に太陽の光などでタッチラインが見えなくなる事を試合前に確認しておく事でタッチライン付近の動き方をイメージする事ができる。

・ペナルティーエリア内に侵入し、判定する事で選手・ベンチ・観客に信頼できるレフェリーだと思ってもらえる。

・常に最悪の事態を想像しながらレフェリングする事で、その事象が起きた時に対応をスムーズにできる。

ガディオーラFC-デサフィオc.f (2-2)主審 高久誠弘 補助審判 北村匠

振り返り

1日に主審が2試合とハードなスケジュールだったものの、1試合目よりも走れており、1試合目の反省を意識しながらレフェリングを行えた。1試合目よりも両チームパスがなかなか繋がらず攻守の切り替えが多くなったことで予期・予測の部分が大事な試合となった。常にトランジションの意識をしつつアフターファウルが無いかなど見る事が多くなった試合ではあったが、ピッチにある情報を整理して上手に対応する事ができていた。またアディショナルタイムを試合終了の2分前に補助審判に伝えたつもりが、補助審判が他の対応に追われていたことから上手く伝わっていなかった。今回は自分が補助審判に伝わっていないことに早く気が付いたので対応できたが、今後試合前の打ち合わせの際により慎重に伝える必要があると感じた。

インストラクターから

・1試合目の反省を活かして2試合目に臨む姿勢が見られた。

・アフターファウルが起きた時に、アドバンテージを適応できる可能性も考慮できるとより良い試合が作れる。

・インプレー中に他のコートからボールが入ってきたもののプレーに直接影響はなかったため、試合を止めずに続けさせた対応は問題ない。

12/26(金)20:00～

プロフェッショナルレフェリー 福島幸一郎氏による講義

感想

1級審判員になるまで、なってからの審判と仕事の両立の難しさ、プロ審判員として大切にしている言葉など貴重なお話でした。今後「上級審判員を目指してみたい」という刺激をもらった有意義な講義でした。

11/27(土) 1次ラウンド・決勝ラウンド16・マクドナルドフレンドリーカップ

/インストラクター 石原薫 氏、和田雄次 氏

1試合目 1次ラウンド

FCフットボール愛知-クロウズFC(2-0)主審 松島憂蘭 補助審判 高久誠弘

2試合目 マクドナルドフレンドリーカップ

FC琉球U-12 - 沖州 FC 主審 新井丈 補助審判 高久誠弘

3試合目 決勝ラウンド16

FCトリアネー口町田-太陽SC(8-1) 主審 高久誠弘 補助審判 新井文

振り返り

試合前から選手の声や両チームの応援からこの試合の重みを感じていたが、過度に緊張する事なくいつも通り集中して試合に臨む事ができた。試合序盤は町田が得点を重ねワンサイドゲームになるかと思われたが、太陽SCの粘り強い守備から攻守が切り替わるなど両チームタフでラウンド16にふさわしい試合となった。レフェリングに関してはU12世代に求められている「笛がなるまで続ける」を選手に意識して貰いながらも選手の安全を脅かすファウルなどの見極めができていた事は良かったと思う。前半アディショナルタイム・後半に一回ずつペナルティーエリア内でのトリッピングがあり、PKを与えた。この場面では1日目の課題であったペナルティーエリア内への侵入を意識し判定できたので今後に活かしたい。また、PK、FK際に壁を離し、リスタートまでスムーズな手順で行えていた事は少しでも選手にサッカーをして貰うという点では良かったと思うが、クイックリスタートの可能性も踏まえて、今後チャレンジしていきたい。

インストラクターから

- ・攻守の切り替えが多かったゲームにも関わらずよく走れていた。
- ・シグナルが綺麗でランニングフォームも改善されていた。
- ・ペナルティーエリア内へのスプリントが無駄がなく信頼感があった。
- ・選手とのコミュニケーションも取れており選手をサッカーに集中させていた。
- ・戻りオフサイドを監視できるポジショニングを意識してみるとより良い。

《おわりに》

この度、JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会に審判員として参加させていただきました。全国の舞台に立ち、一瞬の判断が試合の流れや勝敗を左右する場面も多く、審判員としての責任の重さを強く実感しました。試合では、選手たちが安心して全力を出し切れるよう、常に公平で一貫性のある判定を心がけるとともに、選手・ベンチ・観客の皆様にとってもわかりやすく納得感のあるジャッジを意識して取り組みました。その中で、審判員の振る舞いや判定一つひとつが試合の雰囲気左右し、選手のプレー環境を支えているという、審判という役割の重要性を改めて学ぶことができました。今回得たこの貴重な経験を、今後の地域での審判活動にしっかりと活かし、審判員としての技術・判断力の向上はもちろんのこと、選手が楽しく、安心してサッカーに打ち込める環境づくりに貢献していきたいと考えています。最後になりますが、このような貴重な経験の場を与えてくださった公益財団法人日本サッカー協会の皆様、ならびに派遣にあたり多大なるご支援をいただきました公益財団法人北海道サッカー協会、オホーツク地区サッカー協会の皆様に、心より感謝申し上げます。



